



# 平成24年度 果樹情報 第7号

(平成24年6月20日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (6月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が19.3℃で平年より0.4℃高く、2半旬が18.9℃で平年より0.4℃低く、3半旬が16.0℃で平年より3.7℃低い状況でした。この期間の降水量は36.0mmで平年の93%でした。

## 2 土壌の水分状況 (6月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.5、深さ40cmが1.8、深さ60cmが2.0で、適湿条件の範囲です。

## 3 生育概況 (果樹研究所)

### (1) モモ

#### ア 果実肥大 (6月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が42.8mmで平年比102%、側径が35.9mmで平年比95%とやや小さく、「ゆうぞら」は縦径が42.6mmで平年比99%、側径が32.5mmで平年比90%と小さい状況です

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

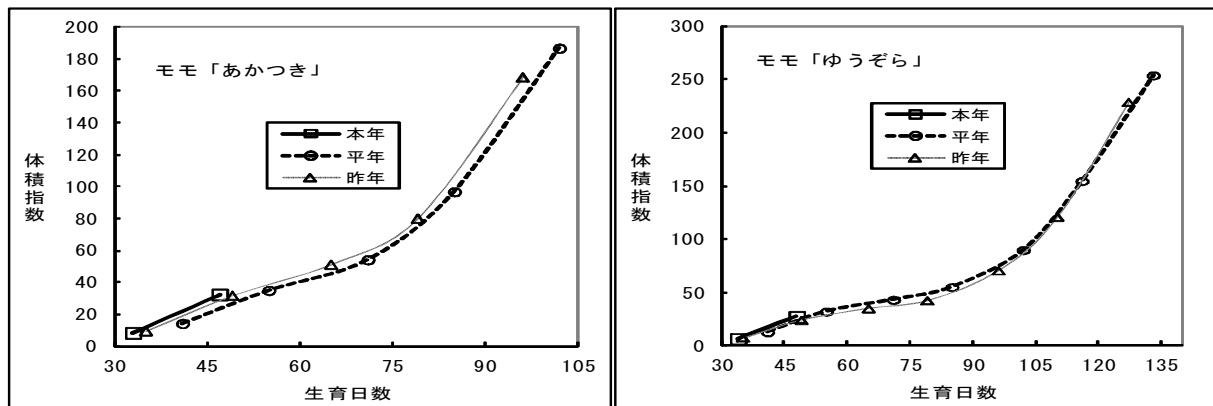


図1 モモの果実肥大 (6月15日現在)

#### イ 新梢生長 (満開後40日現在)

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が8.2cmで平年比114%と長く、展葉数は11.3枚で平年比101%とほぼ平年並み、葉色は平年比100%と平年並みの状況です。

#### ウ 核障害の発生 (満開後45日現在)

「あかつき」の核障害は、核頂部の亀裂の発生率が30%で、平年 (40%) より少なく、縫合面の割裂は見られていません。

#### エ 発育予測 (6月15日現在)

今後の気温が平年並みに経過した場合、「あかつき」の硬核期開始日は6月17日頃で平年より6日遅い見込みです。また、収穫開始日は8月9日で平年より7日程度遅く、収穫盛りは8月12日で平年より6日程度遅れる見込みです。

### (2) ナシ

#### ア 果実肥大 (6月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が27.7mmで平年比106%、横径が31.3mmで平年比104%と平年よりやや大きく、「豊水」は縦径が28.6mmで平年比103%、横径が30.2mmで

平年比104%とやや大きい状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種共に平年より大きい状況です。

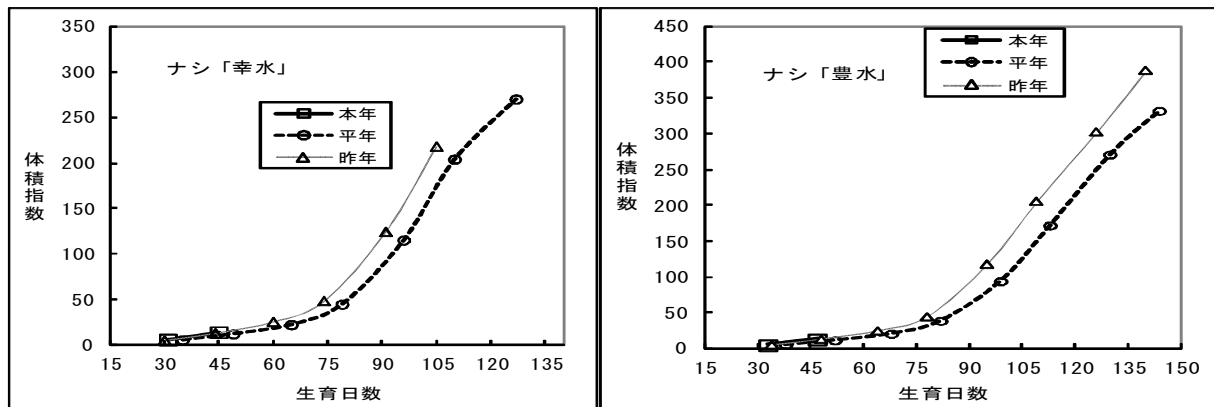


図2 ナシの果実肥大（6月15日現在）

イ 新梢生長（満開後40日現在）

「幸水」の新梢生長は、新梢長（予備枝）が64.7cmで平年比117%と長く、葉枚数が19.9枚で平年比111%と多い状況です。「豊水」は新梢長（予備枝）が84.5cmで平年比136%と長く、葉枚数が21.2枚で平年比120%と多い状況です。

(3) リンゴ

ア 果実肥大（6月15日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が38.8mmで平年比101%、横径が39.0mmで平年比95%とやや小さく、「ふじ」は縦径が36.8mmで平年比103%、横径が34.4mmで平年比97%と横径が平年よりやや小さい状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種共に平年よりやや大きい状況です。

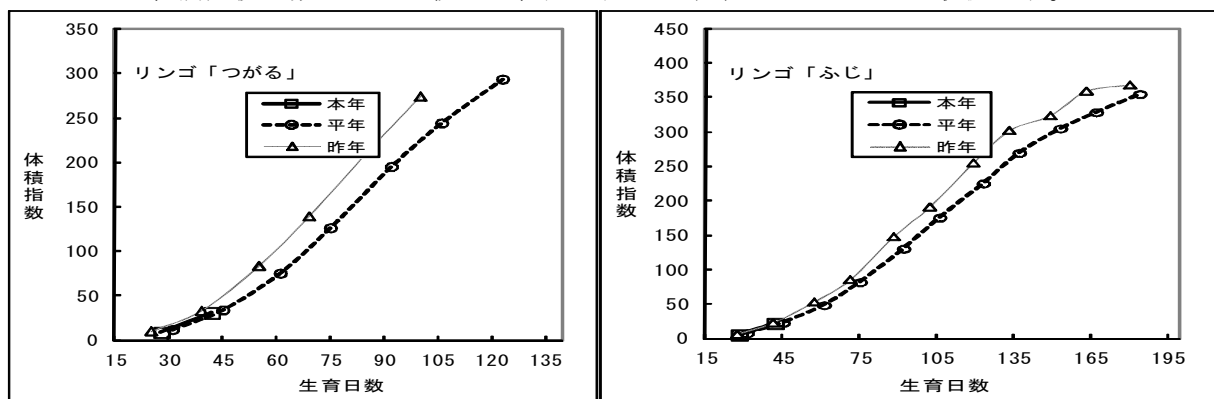


図3 リンゴの果実肥大（6月15日現在）

イ 新梢生長（満開後40日現在）

「ふじ」の新梢長は22.8cmで平年比119%と長く、新梢停止率は93%（平年93%）で平年並みの状況となっています。

(4) ブドウ

ア 開花状況

「巨峰」の開花始期は6月9日で平年より3日早く、開花盛期は6月12日で平年より2日遅れました。

イ 新梢生長（発芽後40日現在）

「巨峰」の新梢長は53.6cmで過去4年間との比較では平成23年に次いで長く、展葉数は10.8枚で多い傾向にあります。

#### 4 栽培管理上の留意点

##### (1) モ モ

###### ア 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施します。

「あかつき」の核割れ果は、満開後60日頃（果樹研究所は6月28日頃）から生育の異常が目立ってきますので、以下に注意して修正摘果を実施してください。

果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮および果肉が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果を実施してください。

園地の核障害の発生状況は修正摘果前に確認し、発生が多い場合は修正摘果を2～3回に分けて実施し、商品果率の向上を図りましょう。

###### イ 着色管理

枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シートの設置等の収穫直前の管理作業は、各園地及び品種の生育状況に注意し、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。

###### ウ 核障害が多い場合の注意点

核障害のある果実は胚に障害を受けていることが多く、硬核期以降、胚に障害を受けた場合、多雨条件下では生理落果が発生しやすくなります。また、胚に障害を持つ果実は早熟することが多いので、収穫が遅れないように注意してください。

##### (2) ナ シ

###### ア 着果管理

仕上げ摘果は、予備摘果終了後速やかに実施しましょう。樹勢低下や果実肥大不良が観察される場合は、新梢停止期前（満開後60～70日、7月上旬～中旬頃）に着果数の10～15%程度を目安に摘果し、着果数を減らします。小玉果や果形の乱れが多い園地では、なるべく果実肥大や果形の良い果実を残し適正着果量に調整してください。

###### イ 新梢管理

「幸水」では、果台からの副芽枝新梢の発生（伸び）が多い場合は、これを摘心します。摘心は、側枝基部20～40cm部の果台から発生した副芽枝を対象とし、ロゼット状の基部葉とその上位節2～3節残して摘心します。摘心により、果実肥大や花芽形成の促進効果が期待できます。

また、「幸水」の予備枝の誘引適期は、新梢停止期約10日前の満開後65日頃です（新梢長90～100cm、展葉節数18～20節）。果樹研究所における本年の裂果期（新梢停止期）の予測は7月19日（満開後79日）頃なので、この場合は、7月上旬頃が誘引作業のピークとなるよう誘引作業を行います。

「豊水」は、満開後60日頃（果樹研究所は6月28日頃）に新梢伸長が緩慢となる予備枝で翌年の果実肥大と果形が良いことから、新梢伸長を抑えるため直ちに誘引を開始しましょう。

また、下垂したり発生方向の悪い新梢は誘引で方向を修正するとともに、側枝の先端新梢が倒れている場合は先端新梢を立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の通りを良くするよう管理しましょう。

##### (3) リンゴ

###### ア 着果管理

仕上げ摘果は満開60日後（果樹研究所「ふじ」は7月2日）までに実施しましょう。

摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果（1果当たりの必要葉枚数45枚）、「さんさ」「緋のあづま」「ジョナゴールド」「陽光」「玉林」「ふじ」は4頂芽に1果（必要葉枚数60枚）を目安とします。

仕上げ摘果は、果形や肥大状況等をよく観察しながら丁寧に実施しましょう。小玉果、変形果、サビ果、傷果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残すよう心がけましょう。

仕上げ摘果の遅れは翌年の花芽分化率低下の原因となるので、着果量の多い樹では遅くと

も7月上旬までに適正着果量に調整してください。

各品種の作業のポイントは、「さんさ」は、隔年結果性が強いので、他の品種に先駆けて摘果を実施しましょう。「つがる」は、大玉にすると日持ちが悪くなるので、中玉生産を目標に摘果を実施します。「緋のあずま」は、1cm程度の極短果枝に着果させるとつる割れが発生しやすいので、5～10cm程度の結果枝を中心に結実させましょう。「ジョナゴールド」は着果数が多いと着色不良や隔年結果が問題となるので適正着果を心がけてください。「陽光」はサビの発生が多いことから側果は利用せず、サビの発生状況をよく確認して摘果します。「玉林」は樹勢が落ち着くと花芽着生が多く着果過多になりやすいので仕上げ摘果を徹底しましょう。

#### イ 新梢管理

梅雨期は徒長枝が繁茂する時期なので、樹冠内部の日照と通風性（防除効果を高める）を確保するため、6月下旬をめどに夏季せん定を実施しましょう。

主枝や垂主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝を中心に切除してください。

### (4) ブドウ

#### ア 摘房・摘粒

早期摘房は、養分の浪費を防ぎ、果実品質の向上効果があります。また、摘粒や袋かけ等の作業労力の軽減にもつながります。

有核栽培では実止まりが確認され次第（満開約2週間後頃）、1新梢1果房を目安に、単為結果が多い果房、花振るいが激しい果房、果粒肥大の揃いが悪い果房を中心に摘房を実施します。品質の良い果実生産のため、適正な着房数管理を心がけましょう。

摘粒は、実止まり決定後、有核果と無核果の区別が付くようになった頃から開始します。時期が遅れると果粒同士が密着し、はさみが入れにくくなるなど作業性も落ちるので、計画的に作業を進めましょう。

#### イ 新梢管理

実止まりが確認され次第、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を切除し、棚面の明るさを確保してください。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア リンゴ輪紋病・斑点落葉病・褐斑病

梅雨期は輪紋病、斑点落葉病の重点防除期です。両病害に効果が高い薬剤を6月下旬に十分量散布してください。

また、褐斑病は果樹研究所「ふじ」無防除樹の果そう葉で初発生が確認されています。今後は二次感染を繰り返すので、発生が認められる園では防除を徹底してください。

#### イ モモせん孔細菌病

梅雨期に降水量が多いと二次伝染源による発病が増加するおそれがあり、今後も引き続き注意が必要です。

発生が認められる園地では6月中旬以降10日間隔でせん孔細菌病防除剤を散布してください。なお、早生種では収穫前日数に十分注意しましょう。また、園内に春型枝病斑や発病葉および果実が見られる場合は適切に処分し、耕種的防除を徹底してください。

#### ウ モモホモプシス腐敗病・灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重点防除時期にあたりますので、6月下旬に本病に防除効果の高い薬剤を散布するとともに、伝染源の芽枯れや枝枯れが認められる場合はせん除し適切に処分しましょう。

また、灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、6月下旬以降、灰星病防除剤を十分量散布し防除の徹底を図ってください。

#### エ ナシ黒星病、輪紋病

6月10日現在、果樹研究所の「幸水」無防除樹における黒星病の新梢葉発病率は1.8%と平年(3.3%)より少ない状況でしたが、今後も引き続き注意が必要です。黒星病の罹病部位は見つけしだい取り除き、耕種的防除を徹底しましょう。また、輪紋病も梅雨期が重点防除

期となるため、6月下旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布してください。多発が予想される場合は、今回以降、梅雨明けまで7日間隔で散布を行きましょう。

オ ブドウ晩腐病

開花後は本病の重点防除時期となるため、落花直後の薬剤防除を徹底しましょう。なお、果面汚れを防ぐため、袋掛けが終わるまで展着剤を加用せずに散布します。また、本病防除のため、幼果期の散布後にカサ掛けを丁寧に行いましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

本種の次世代防除適期は7月2～3半旬頃と推定されるため、この時期に合わせて防除を行きましょう。

本種の発生は放任園や観賞用の無防除ハナモモ等の栽培園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意してください。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイの第2世代防除適期は7月2～3半旬頃と推定されます。

本種の第1世代は主にモモ等の核果類の新梢に寄生するが、後半の世代ではナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除を徹底してください。

ウ モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているモモ園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、6月3半旬頃から10日間隔で2～3回防除を行きましょう。

被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めてください。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施しましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（6月18日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	7月4日	7月6日	6月28日	7月6日
平年並み	7月5日	7月8日	6月29日	7月8日
2℃低い	7月9日	7月14日	7月3日	7月14日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：6月7日、ナシヒメシンクイ：5月5日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。